



Member of
United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



朝風

教育目標 自立 貢献
～ 夢大きく 共に学び 新たな時代をつくる ～

令和4年度
学校報No.26
令和4年11月25日
大仙市立
大曲南中学校



※HP随時
更新しています

◇ワールドピースゲーム見事に勝利！

11月14日（月）から18日（金）まで、3年生は5日間、合計15時間に渡ってワールドピースゲームに取り組みました。

勝利の条件は、「仮想国家A, B, C, D各国全てが資産を増やし、かつ、23のクライシスを全て解決すること」でした。2日目に全てのクライシスの説明があり、その時点で「本当に残り3日で解決できるだろうか」というとてつもない不安に襲われた人がほとんどでした。3日目から交渉と宣言を繰り返し、4日目を終了した時点で、未解決のクライシスは12、資産を減らしている国が1つありました。しかし、5日目に怒濤の交渉と宣言が行われ、C国の最終宣言の段階で全てのクライシスが解決され、資産を減らしていた国も、資産を増やし、このゲームに勝利することができました。

最後の解決の鍵となったのは、A国新目琉喜首相の「水素発電所を世界銀行が買い取って、それぞれの国に分け与える」という奇策でした。もちろん、A国新目首相はこのことについて全ての国や世界銀行、武器商社と交渉し、それぞれ了承を得た上で、最後に国連の了承を得て発動しました。（この宣言の場面は、本校HPでご覧ください。）

ファシリテーターの望月理奈さんがワールドピースゲームのホームページに「最後の最後に、ほぼ全てのチームを巻き込んだ壮大な危機回避スキームが生み出され、世界は救われました！」と投稿しています。そして、「たった5日間で、世界のリーダーとして目覚ましい成長ぶりを見せてくれた南中29名の皆さん、おめでとうございます」と賞賛の言葉も載せています。（WPGのHPもご覧ください）



世界銀行CEO、A国首相、D国財務大臣の交渉



D国防衛大臣とC国国務大臣の交渉



B国首相とD国首相のトップ会談



武器商社の宣言



超多忙な世界銀行



全てを託される運命の神

○実施後の生徒の感想

- ・最初は面倒くさいと思いました。でも、実際にゲームをやっていくと、本当に現実の世界で起こっている問題などもあると思いました。これまでは国際情勢に興味はありませんでしたが、自分で考えて行動することで、これらの問題を身近に感じる事ができました
- ・自分の行動に責任をもっていきたいです。平和について、みんなが納得していい生活ができるように協力することが大切だと思いました。
- ・初めは軍事力で解決するものだと思っていましたが、だんだん時間が経つにつれて、話合いで解決するものがほとんどだったので、やはり何においても話合いをする大切さが分かった。「話せば分かる」は本当だった。
- ・各国の思想や資産は違っても、それぞれの問題の話合いに積極的に参加し、武力はなるべく使わずに、世界がひとつになって考えていくことが大切だということが分かりました。
- ・交渉を成功させる秘訣は、相手の話をよく聞くこと。その先のことを見据えて話し合うこと。このことは、日常生活でできることだと思います。「人の話をしっかり聞くこと」で、お互いが対立せず全て丸く収まると思うし、素晴らしい優秀な人間に近付けると思います。
- ・世界を相手にしている人はとても大変なんだと思った。たくさん問題を解決するのは、頭が混乱して大変でしたが、全てを達成した後の達成感がすごかった。
- ・より深く国際問題に関心をもつことができました。自分でより深く考えて、課題に対してどのように立ち向かうのかを考えることが大切だと思いました。
- ・世界の問題を解決するのは「話合い」です。今現在起こっているのは武力解決です。それは本当にいいやり方なのか、解決の方法はそれしかないのか、今一度武力行使をしている人たちに考え直してほしいです。